
2018 年度日本語教育センター活動報告

1. 2018 年度日本語教育センター運営体制

運営委員会

- センター長：丸山 千歌 (異文化コミュニケーション学部教授)
副センター長：巖 成男 (経済学部教授)
運営委員：水上 徹男 (全学共通カリキュラム運営センターコア会議から、社会学部教授)
運営委員：黄 盛彬 (国際センターから、社会学部教授)
運営委員：韓 志昊 (センター長指名による、観光学部准教授)

実務委員会

- センター長：丸山 千歌 (異文化コミュニケーション学部教授)
副センター長：巖 成男 (経済学部教授)
センター員：池田 伸子 (異文化コミュニケーション学部教授)
センター員：韓 志昊 (観光学部准教授)
センター員：金庭 久美子 (特任准教授)
センター員：藤田 恵 (特任准教授)
センター員：数野 恵理 (教育講師)
センター員：小林 友美 (教育講師)
センター員：嶋原 耕一 (教育講師)
事務局：阪下 利哉
事務局：吉田 友子
事務局：山崎 真紀子
事務局：佐藤 悠

兼任講師

- 浅野 有里 谷 啓子
泉 大輔 富倉 教子
井上 玲子 長島 明子
猪口 綾奈 長谷川 孝子

小柳津 成訓	西内 沙恵
神元 愛美子	布村 猛
川端 芳子	東平 福美
草木 美智子	開 めぐみ
小森 由里	平山 紫帆
斉藤 紀子	保坂 明香
佐々木 藍子	三浦 綾乃
沢野 美由紀	守屋 久美子
清水 知子	山内 薫
高嶋 幸太	森井 あずさ
武田 聡子	

2. 活動報告

日本語教育センターホームページにて3月末公開予定

<https://cjle.rikkyo.ac.jp/reports/default.aspx>

目次（予定）

1. 各科目についての報告
2. 2018年度 Placement Test 実施報告
3. 2018年度日本語相談室実施報告
4. 2018年度立教大学漢字検定試験実施報告
5. 2018年度日本語自主学習用図書貸し出し実施報告
6. 留学生による日本語スピーチコンテスト実施報告
7. 日本語教育センターシンポジウム実施報告
8. 日本語教育センターニュースレター発行報告
9. 短期日本語プログラム報告
10. センター員活動報告
11. 2018年度FD記録

日本語教育センターセンター員 教育研究業績一覧

池田伸子

研究論文

1. 「多様なニーズに対応可能な日本語教員養成プログラムの開発——シミュレーションによる態度変容可能性の検討 2——」『日本語・日本語教育』第2号、立教大学日本語教育センター、2019年、1-17頁
2. 「多様なニーズに対応可能な日本語教員養成プログラムの開発——視聴覚教材利用による態度変容可能性の検討 2——」『日本語教育実践研究』第7号、立教日本語教育実践教育学会、2019年（印刷中）

研究発表

1. 「開発型評価を取り入れた日本語教育プログラム評価の実践——新規開講の漢字クラスを対象に——」（藤田恵・金庭久美子・数野恵理・嶋原耕一・丸山千歌との共同ポスター発表）ヴェネツィア 2018年日本語教育国際研究大会、於イタリア、ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学、2018年8月4日

発表

1. 「グローバル人材の育成について」、日中大学学長フォーラム、於淡路夢舞台国際会議場、2018年11月26日
2. 「多様な正規学部留学生受け入れにおいて日本語教育（センター）の果たすべき役割」、立教大学日本語教育センターシンポジウム 2018、於立教大学、2019年1月26日

受賞

1. 「「can-do」の理念に基づいた教材開発——『新界標日本語総合教程』1-4冊（教材）」証書番号 2017018、華東師範大学本科教学成果賞 一等賞（編集委員として参加）
2. 「「can-do」の理念に基づいた教材開発——『新界標日本語総合教程』1-4冊（教材）」G-2-2017164、上海市級教学成果賞 二等賞、上海市教育委員会・上海市人力資源和社会保障局（編集委員として参加）

研究助成

1. 2015.4～現在 科学研究費助成金（基盤研究（C））「ディスレクシア学習者に対する実現可能で個別的な日本語教育支援体制の構築」（研究代表者）（課題番号：15K02657）
2. 2017.4～現在 科学研究費助成金（基盤研究（C））「大学日本語教育プログラムを対象とした開発型評価——持続可能で有用な開発型評価とは」（研究分担者）（課題番号：17K02863）

丸山千歌

研究論文

1. 「日本語学習者の人生の径路に表れる日本との接触——日本に住み、働きつづける日本留学経験者 A の場合——」(小澤伊久美との共同執筆)『日本語・日本語教育』第2号、立教大学日本語教育センター、2019年、19-38頁

研究発表

1. 「日本に住み、働き続ける径路に表れる日本留学、日本語学習経験」(小澤伊久美との共同ポスター発表)、ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会、於イタリア、ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学、2018年8月4日
2. 「開発型評価を取り入れた日本語教育プログラム評価の実践——新規開講の漢字クラスを対象に——」(藤田恵・金庭久美子・数野恵理・嶋原耕一・池田伸子との共同ポスター発表) ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会、於ヴェネツィア・カフォスカリ大学、2018年8月4日
3. The trajectory of an Ex-student of Japanese on choosing Japan as the Place of living. (小澤伊久美との共同ポスター発表)、TEA 国際集会、於立命館大学大阪茨木キャンパス、2019年3月2日
4. 「留学体験を持つ日本語学習者 X が日本に住み、働き続ける径路——X は分岐点でどのような葛藤を経験しているか——」(小澤伊久美との共同発表)、沖縄日本語教育研究会第16回大会、於琉球大学国際教育センター、2019年3月9日

講演

1. 「これからの教師教育——開発型教師を目指して——」2018年全国高校日語系主任及日語骨干教師論壇、於華東師範大学、2018年5月19日(招待講演)

受賞

1. 「「can-do」の理念に基づいた教材開発——『新界標日本語総合教程』1-4冊(教材)」証書番号 2017018、華東師範大学本科教学成果賞 一等賞(徐敏民との連名での受賞)
2. 「「can-do」の理念に基づいた教材開発——『新界標日本語総合教程』1-4冊(教材)」G-2-2017164、上海市級教学成果賞 二等賞、上海市教育委員会・上海市人力資源和社会保障局(徐敏民との連名での受賞)

研究助成

1. 2016.4～現在 科学研究費助成金(基盤研究(C))「「移動して学ぶ」時代の日本語教育——留学体験の意味づけの変容・維持過程の分析から」(研究代表者)(課題番号:16K02824)
2. 2017.4～現在 科学研究費助成金(基盤研究(C))「大学日本語教育プログラムを対象とした開発型評価——持続可能で有用な開発型評価とは」(研究分担者)(課題番号:17K02863)

金庭久美子

著書

1. 『ICT×日本語教育』(李在鎬(編)、當作靖彦(監修)、「メール作成タスクを用いた作文支援システム」(川村よし子、橋本直幸との共同執筆)、2019年2月、ひつじ書房、(印刷中)

研究発表

1. 「Role-based Listening の実践——『なりきりリスニング』のより効果的な授業を目指して——」(奥野由紀子・山森理恵との共同発表)、口頭発表、韓国語教育學會 第33回 國際學術大會、於建国大学校(韓国)、2018年4月28日
2. 「開発型評価を取り入れた日本語教育プログラム評価の実践——新規開講の漢字クラスを対象に——」(藤田恵・数野恵理・嶋原耕一・池田伸子・丸山千歌との共同発表)、ポスター発表、ヴェネツィア 2018年日本語教育國際研究大会、於ヴェネツィア・カフォスカリ大学、2018年8月4日
3. 「日本語学習者のメール文における配慮表現の課題」、ポスター発表、ヴェネツィア 2018 日本語教育國際研究大会、Venezia ICJLE 2018、於カ・フォスカリ大学 2018年8月4日
4. 「メール返信時の韓国人学習者の自分の意志を伝える表現——婉曲表現の有無に焦点を当てて——」(金蘭美・金玄珠との共同発表)、口頭発表、韓國日本學會(KAJA) 第7回 國際學術大會、於漢陽大學校(韓国)、2018年8月24日
5. 「メールタスクにおける「V ようと思う」の使用状況——日本語学習者と日本語母語話者の違いに着目して——」(金蘭美との共同発表)、口頭発表、ならびにポスター発表、第51回日本語教育方法研究会、於国土館大学、2018年9月8日
6. 「引用の仕方の違い——相手からの情報を前提情報とする場合——」(金蘭美・金玄珠との共同発表)、口頭発表、韓國語教育學會 第34回冬季國際學術發表大會、於建国大學校(韓国)、2018年12月8日
7. 「慣用表現に対応したやさしい日本語書き換えシステム」(川村よし子との共同発表)、口頭発表、日本語教育学会 2018年度支部集会、於武庫川女子大学、2019年3月23日(予定)

受賞

1. 「「can-do」の理念に基づいた教材開発——『新界標日本語総合教程』1-4冊(教材)」証書番号 2017018、華東師範大学本科教学成果賞 一等賞(編集委員として参加)
2. 「「can-do」の理念に基づいた教材開発——『新界標日本語総合教程』1-4冊(教材)」G-2-2017164、上海市級教学成果賞 二等賞、上海市教育委員会・上海市人力資源和社会保障局(編集委員として参加)

その他

1. 交流ひろば出展、「メール作成支援システム『花便り』:読み手に配慮してメール文を書こう!」、日本語教育学会 2018年度支部集会(九州沖縄支部)、於福岡女子大学、2018

年7月1日

2. 交流ひろば出展、「受け答えに見られる不自然さの要因——OPIインタビュー時の「繰り返し」に着目して——」、日本語教育学会2018年度（支部集会関東支部）、於文化外国語専門学校、2018年10月28日
3. 交流ひろば出展、「やさしい日本語書き換えシステム『チュウ太のやさしくな一れ』」、日本語教育学会2018年度日本語教育学会秋季大会、於プラサヴェルテ（沼津市）、2018年11月24日

研究助成

1. 2015.4～至現在 科学研究費助成金（基盤研究（B））「多義語の意味の自動特定機能を組み入れたやさしい日本語による読解支援環境の構築」（研究分担者）（課題番号：15H03219）

藤田 恵

研究論文

1. 「視覚に障害のある学習者を対象としたオンライン通話システムによる日本語授業の実践報告——Skypeによる授業の可能性と課題——」（河住有希子・北川幸子・浅野有里との共同執筆）、『日本語教育方法研究会誌』Vol.24 No.2、日本語教育方法研究会、2018年、118-119頁
2. 「インクルーシブ教育の実現に向けた中級読解授業の実践——日本語教師による読解教材点訳の試み——」（浅野有里、河住有希子・北川幸子との共同執筆）『日本語・日本語教育』第2号、立教大学日本語教育センター、2019年、83-97頁

研究発表

1. 「あん摩マッサージ指圧師国家試験に見られる語彙の分析——用いられる語彙の傾向と学習優先度の検討——」（河住有希子・浅野有里・北川幸子との共同ポスター発表）、2018年度日本語教育学会 春季大会、於東京外国語大学、2018年5月27日
2. 「開発型評価を取り入れた日本語教育プログラム評価の実践——新規開講の漢字クラスを対象に——」（金庭久美子・数野恵理・嶋原耕一・池田伸子・丸山千歌との共同ポスター発表）、ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会、於ヴェネツィア・カフォスカリ大学、2018年8月4日
3. 「視覚に障害のある学習者から見たICT教材のアクセシビリティに関する一考察——既存のデジタルコンテンツへのアクセシビリティの検証——」（河住有希子・北川幸子・浅野有里との共同ポスター発表）、日本語教育国際研究大会 Venezia ICJLE 2018、於ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学、2018年8月4日
4. 「視覚に障害のある学習者を対象としたオンライン通話システムによる日本語授業の実践報告——Skypeによる授業の可能性と課題——」（河住有希子・浅野有里・北川幸子との

共同発表及びポスター発表) 日本語教育方法研究会 第 51 回研究会、於国土館大学、
2018 年 9 月 8 日

受賞

1. 「can-do」の理念に基づいた教材開発 — 『新界標日本語総合教程』1-4 冊 (教材)』
証書番号 2017018、華東師範大学本科教学成果賞 一等賞 (編集委員として参加)
2. 「can-do」の理念に基づいた教材開発 — 『新界標日本語総合教程』1-4 冊 (教材)』
G-2-2017164、上海市級教学成果賞 二等賞、上海市教育委員会・上海市人力資源和社会保障局 (編集委員として参加)

研究助成

1. 2016.4 ~現在 科学研究費助成金 (基盤研究 (C)) 「視覚障害教育から切り拓く国際共生社会における日本語インクルーシブ教育の基盤構築」(研究分担者) (課題番号: JP16K02819)

数野恵理

報告

1. 「留学生のレポートに見られる不適切な引用と学生の意識 — レポート分析とインタビュー調査から —」『日本語・日本語教育』第 2 号、立教大学日本語教育センター、2019 年、57-72 頁

ポスター発表

1. 「ある中国人留学生のレポートを書く力の変化 — 引用の仕方に注目して —」、第 50 回日本語教育方法研究会、於名古屋大学、2018 年 3 月 24 日
2. 「開発型評価を取り入れた日本語教育プログラム評価の実践 — 新規開講の漢字クラスを対象に —」(藤田恵、金庭久美子、嶋原耕一、池田伸子、丸山千歌との共同発表)、ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会、於ヴェネツィア・カフォスカリ大学、2018 年 8 月 4 日

小林友美

研究論文

1. 「日本語の情報収集の談話の展開方法 — 大学生と留学生による就職活動の相談の談話を対象に —」『日本語・日本語教育』2 号、立教大学日本語教育センター、2019 年、39-55 頁

嶋原耕一

著書

1. 『接触場面への参加による日本語母語話者と非母語話者の変化 - 初対面雑談会話における

話題の分析を通して -』立教大学出版会、2019年（印刷中）

研究論文

1. 「日本語教師とティーチングアシスタントによる作文フィードバック観自覚のための実践」
（益本佳奈との共同執筆）『日本語・日本語教育』第2号、立教大学日本語教育センター、
2019年、73-81頁

研究発表

1. 「開発型評価を取り入れた日本語教育プログラム評価の実践——新規開講の漢字クラスを
対象に——」（藤田恵・金庭久美子・数野恵理・池田伸子・丸山千歌との共同発表）ヴェ
ネツィア 2018年日本語教育国際研究大会、於ヴェネツィア・カフォスカリ大学、2018
年8月4日
2. 「日本語教師とTAによる作文フィードバックの実践——評価観を自覚するための試み——」
（益本佳奈との共同発表）日本語教育方法研究会第51回研究会、於国士舘大学、2018年
9月8日

研究助成

1. 2018.4～至現在 科学研究費助成金（若手研究）「母語話者と非母語話者による成員カ
テゴリの交渉と社会的行為について」（研究代表者）（課題番号：18K12433）

執筆者一覧（掲載順）

研究論文 Research Papers

池田 伸子	（IKEDA, Nobuko）	異文化コミュニケーション学部教授
丸山 千歌	（MARUYAMA, Chika）	異文化コミュニケーション学部教授
小澤伊久美	（OZAWA, Ikumi）	国際基督教大学日本語教育課程課程上級准教授
小林 友美	（KANENIWA, Kumiko）	日本語教育センター教育講師

実践報告 Practice Reports

数野恵理	（KAZUNO, Eri）	日本語教育センター教育講師
嶋原 耕一	（SHIMAHARA, Koichi）	日本語教育センター教育講師
益本 佳奈	（MASUMOTO, Kana）	異文化コミュニケーション研究科大学院生
浅野 有里	（ASANO, Yuri）	日本語教育センター兼任講師
藤田 恵	（FUJITA, Megumi）	日本語教育センター特任准教授
河住有希子	（KAWASUMI, Yukiko）	日本工業大学工学部准教授
北川 幸子	（KITAGAWA, Sachiko）	神田外語大学留学生別科講師
長谷川孝子	（HASEGAWA, Takako）	日本語教育センター兼任講師

研究ノート Research Notes

森井あずさ	（MORII, Azusa）	日本語教育センター兼任講師
-------	----------------	---------------

『日本語・日本語教育』規定

1. 投稿資格

立教大学日本語教育センター員、日本語教育センター科目担当兼任講師、教育研究コーディネーターおよび当センターにおいて適当と認められた者とする。ただし、共著の場合、前述の投稿資格を有する者が1名含まれていなければならない。

2. 内容

日本語教育およびその関連領域。未発表の原稿に限る。

3. 使用言語

日本語または英語とする。

4. 書式

原稿は横書きで、MS Word 形式ないしテキストファイル形式とし、A4判の用紙（40字×35行）で、研究論文は20枚以内、実践報告及び調査報告は16枚以内とする。図表、参考資料、参考文献、注などもこの分量の範囲に含める。文献等の書き方は、『『日本語・日本語教育』執筆要領』に従うこと。

5. 要旨

和文（400字以内）の要旨をつける。キーワードは、和文論文は日本語5語以内、英文論文は英語5語以内を付す。

6. 採否の決定

原稿の採否は本誌編集委員会が決定し、本人に通知する。

7. 編集委員

編集委員会は、日本語教育センター員から選出された4名の委員によって構成する。編集委員の任期は1年とするが、再任は妨げない。

8. 本誌の発行は年1回とする。

9. ウェブサイトにおける公開

掲載論文の執筆者名、要旨、論文本文等を立教大学のウェブサイト等で公開する。

ウェブサイトにおける公開は「立教大学学術リポジトリ運用指針」に基づくものとする。

10. 原稿の送付

次の①～③を下記に郵送すること。

①原稿本体（A4判）1部

②次のものを記した別紙1（A4判）1部

- カテゴリー（研究論文、実践報告、調査報告、のいずれか）
- 和文タイトル及び英文タイトル
- 著者名（和文表記とアルファベット表記）
- 和文要旨（400字以内。要旨末尾に括弧書きで文字数を記載のこと。）
- キーワード（原稿中の主要語句を5語以内）

③執筆者氏名、所属機関名、職位を記した別紙2（A4判）1部

また、MS Word 形式ないしテキストファイル形式のデータを下記のアドレスに送信すること。

「日本語・日本語教育」編集委員会

〒171-8501 東京都西池袋3-34-1 日本語教育センター内

E-mail: cjle-kiyo@rikkyo.ac.jp

『日本語・日本語教育』執筆要領（和文論文）

1. 投稿原稿の構成

投稿原稿は、次の部分から構成されるものとします。この順序で書いてください。（著者名は除く。）

- (1) タイトル（和文・英文）
- (2) 要旨（日本語 400 字以内。要旨末尾に括弧書きで文字数を記載のこと。）
- (3) キーワード（原稿中の主要語句を日本語 5 語以内。）
- (4) 本文（図表を含む）
- (5) 注（必要に応じて）
- (6) 引用文献・参考資料一覧

2. 投稿論文のカテゴリー

(1) 研究論文：

日本語教育および関連領域について、十分に先行研究を把握した上で述べられているもの。

A：先行研究を十分に把握した上でたてた仮説の検証を行っている実践的論文。

B：先行研究を十分に把握した上でたてた仮説の検証を行っている調査論文。

C：先行研究を十分に把握した上で行っている日本語教育に関する提案、提言。

D：これまでに行われている研究、調査論文の総括および解説。

(2) 実践報告：

教育現場における実践の内容、効果等が具体的、かつ明示的に述べられているもの。

(3) 調査報告：

言語データ、史的資料、教育の現状分析や関連する意識調査の結果など、日本語教育にとって資料的価値が認められる報告が明確に記述され、結果の分析が行われているもの。

3. 投稿原稿の書式・分量

- 投稿原稿は「A4 判横書き、40 字× 35 行」で作成してください。原稿はワープロで作成し、図表を含め、できるだけ仕上がり紙面に近い形で原稿を作成してください。

• 分量

研究論文 20 枚以内

実践報告・調査報告 16 枚以内

- 本文（英数字含む）は明朝 10 ポイント、各章の見出しはゴシック 10 ポイント（太字にする必要はありません）とし、行間も統一してください。要旨、注、参考文献・資料で文字を小さくしたり、行間をつめたりしないでください。

- 句読点は 日本語は「、」「。」で統一してください（表題も含みます）。
- 注は、脚注ではなく後注にし、注の番号は（1）、（2）、（3）…としてください。
- 表番号と表題は表の上、図番号と図題は図の下に記載してください。
- 原稿は片面印刷にし、両面印刷にはしないでください。

4. 資料・参考文献

• 資料

論文内に使用した他者の著作物（図版、写真等）は、投稿前に必要に応じて公開の許諾を得てください。

• 参考文献の書き方は、以下の基準に従うこと。

- （1）論文原稿の最後に、章番号をつけずに参考文献という見出しをつける。資料を載せる場合は、参考文献の後に、資料という見出しをつける。
- （2）参考文献は、日本語による文献（以下、日本語文献）と、外国語（英語、中国語など）による文献（以下、外国語文献）とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献、の順に記載する。
- （3）日本語文献は、第一著者の姓の五十音順に配列し、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。

• 各文献で記載すべき情報は、およそ次の通りです。

- （1）単行本<単著、共著>の場合：著者、発行年、書名、出版社名
- （2）単行本<分担執筆>の場合：分担執筆者、発行年、当該章の題名、編者、書名、章番号、出版社名、ページ
- （3）学術論文の場合：著者、発行年、題名、雑誌名、巻または号、ページ
- （4）学会発表予稿集（論文集）の場合：著者、発行年、題名、予稿集名（論文集名）、ページ
- （5）教科書の場合：著者、出版年、教科書名、出版社名
- （6）インターネット情報の場合：当該情報が記載されている HP などのアドレス

• 記載例

（1）単行本<単著、共著>の場合

横山紀子（2008）『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』
ひつじ書房

Anderson, J. R. (1983). The architecture of cognition. Cambridge, MA: Harvard University Press.

（2）編著書中の論文の場合

松見法男（2002）「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子（編）『日本語教育のための心理学』第6章 新曜社 pp.97-110

MacWhinney, B. (1989) Competition and connectionism. In B. MacWhinney, & E. Bates

(eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing* (pp.422-457). New York: Cambridge University Press.

(3) 学術論文の場合

宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち（2009）「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響——文脈の中での意味推測を妨げる要因とは——」『日本語教育』140号、48-58.

小柳かおる（2002）「Focus on Form と日本語習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』第5号、62-96.

Papagno, C., Valentine, T., & Baddeley, A. D. (1991) Phonological short-term memory and foreign-language vocabulary learning. *Journal of Memory and Language*, 30, 331-347.

(4) 学会発表予稿集（論文集）の場合

迫田久美子・松見法男（2005）「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究（2）——音読練習との比較調査からわかること——」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、241-242.

(5) 教科書の場合

日本花子・東京次郎・大阪美子（編）（2006）『上級者のための日本語（2）——読解編——』日本語教育書房

(6) インターネット情報の場合

日本語教育投稿規定 < <http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/journal/j-yoryou.htm> >